

# 御仏の教え

智積菩薩は、文殊菩薩が長らく海中で暮らして多くの者を教化されたのを知り、「貴方はどのような教えを説いたのですか」と尋ねると、文殊菩薩は「私はただ法華経を説き示しただけです」と答えます。

智積菩薩は「法華経は非常に深遠で微妙であり、逢い難いものです。この宝玉のような経典を崇め尊んだだけで、この上なく完全な覺りに到着したりできるのですか」と疑問をぶつけた。

文殊菩薩は、サーガラ竜王の娘で聡明で感性豊かな8歳の少女が、法華経を聞くや否や求道心を起こし、一切の生類に愛情を注ぐ心を起こすや、一瞬して覺りに到達したことを話し聞かせた。

これを聞いた舍利弗は、「私はお釈迦様が長い間、必死に悟りを求めて修行されたことを知っています。なのに8歳の女の子が一瞬にして悟りを得たとは到底信じられません。これ迄いくら聡明な婦女子といえども梵天や帝釈天、転輪聖王の地位にさえ就いたことがないのに」と返した。

この疑問に対し、文殊菩薩は「法華経は命あるものは全て仏になる性質（仏性）を備えていると説く教え」です。

法華経は全てのもので覺りに導いてくださる御教えであり、法華経を聞くものは男女や尊卑の差別なく誰でも等しく仏になれるのです、とお諭し下さったのです。



## 10月 行事予定

8日	心経講座
11日	稻荷社ご縁日
14日・15日	灯参道
15日	諷誦法要 <small>1150年前に慈覚大師円仁が伝えた光明真言の秘法により亡者生前の一切の罪を消し、極楽浄土へお送りする法要です。</small>
17日	観音様ご縁日
28日	懺悔護摩供養祭

## 11月 行事予定

1~10日	宝物館一般公開
11日	清水稻荷社大祭 もっこ祭り
12日	心経講座
17日	観音様ご縁日
28日	懺悔護摩供養祭

# 10月の言葉

諸経の中の宝である  
法華経の教えに従って  
修行し、精進したもので  
仏と成った者ありや

妙法蓮華経提婆達多品より





湯立灌頂



焼きミカン

稲荷社の火で焼いたミカンを頂戴すると冬風邪を引かないと言い伝えられています。

護摩木 500円 (湯立灌頂、焼きミカン付き)  
をぜひご奉納下さい！

# 仏教入門 No.37



先月までにアショーカ王までの時代について概観してきました。仏教学という学問において、インドの仏教を五つの時代に分けるのですが、アショーカ王は「原始仏教」(げんしぶっきょう)という最も古い仏教の時代の定義と密接に関係してきます。

まずは「原始仏教」の定義から紹介していきましょう。「原始仏教」は、釈尊の成道・初転法輪、そしてそれによる教団の成立から、上座部(じょうざぶ)と大衆部(だいしゅぶ)の根本分裂(こんぽんぶんれつ)までの時代の仏教を意味するというのが一般的です。具体的な時代区分によってこれを示せば、アショーカ王(在位:紀元前268頃-紀元前232頃)の時代までとされることが多いのですが、現在でも学界において「仏滅年代論」(ぶつめつねんだいろん)が決着を見ておらず、それに伴って根本分裂の発生時期も確定できていません。

これだけでは意味が分からないと思いますので、もう少し詳しく説明してみましょう。

根本分裂は、東南アジアなどで伝承されたパーリ語文献と東アジアに伝承されている漢訳文献の伝承のいずれも仏滅後、つまり釈尊が入滅してから100余年とされ共通しています。そうなるに次に問題となるのが、両者の仏滅に関する伝承の相違であり、このことはまた、アショーカ王時代の教団の状況を推測する上で重要となります。

仏滅年代に関する説はいくつか見られますが、大別すると次の二つの説にまとめることができます。一つはパーリ語文献、いわゆる

南伝の伝承に従えば、釈尊の在世は紀元前563-紀元前483となります。一方の漢訳文献、いわゆる北伝の伝承での在世時期は紀元前466-紀元前386となっています。後者の年代については、松江の名誉市民でもある中村元博士によって紀元前463-紀元前383と若干の修正が施されています。つまり、両者の入滅年には100年の違いがあるわけです。

このように主に南伝説と北伝説が並立する中で、これまでの研究ではそれぞれに立脚して仏滅年代について成果が発表されてきました。しかしどちらの説にも問題点があり、未だに定説の確定には至っていません。ただし、日本においては、中村博士の説を採用する研究者が多いようです。

繰り返しになりますが、パーリ語文献と漢訳文献の仏滅年代には約100年の違いがあります。前者の伝承を採用するのであれば、アショーカ王時代は仏滅後200年を超え、より正確に言えば仏滅後218年となり、その時代には根本分裂どころか枝末分裂が始まっていることとなります。また、後者の伝承であれば、アショーカ王時代前後に根本分裂が生じていたことになるのです。

このように北伝・南伝系のいずれの伝承を採用するかによって、アショーカ王の時代の仏教に対する認識が変わってしまいます。そして、それに伴って根本分裂、つまり、原始仏教の年代設定も左右されるのです。その意味では、非常に不安定な根拠のもとで、現在においても研究が進められていると言えるかもしれません。